

34 アヴィセンナ（イブン・シーナ）の

「医学範典」における精神医学（第一回）

濱 中 淑 彦

中世医学の見直しの作業 (Schipperges 1964-90, Schnell

1994, Rina 1996) は今世紀後半に始められ、精神医学

(Schipperges 1961-85, Jackson 1972-81, Kroll et al. 1973,

Neugebauer 1979, Pablo 1994, Roffe 1995) や、文化・社

会的背景 (Gross 1990, Wack 1990, Laharie 1991, Fritz

1992) の研究も開始されつつあるが、我が国では原典に基

づいた研究は皆無と言って過言でない。殊に古代の

Galenos 医学を組織的に同化し、中世において最も包括

的な医学体系を提供した Avicenna (Ibn-Sina: 980-1037)

の「医学範典 al canun fittib」5巻は Cremona の Gerar-

dus (Galenos の “Arsmedica” のラテン語訳からの重訳者)

によりラテン語訳 (1187) されて以来、15—16世紀だけで

も36回以上出版 (Ullmann 1978) されたが現代語の全訳は

なく、第1巻の英訳 (Gruner 1930/70, Shah 1996) と邦訳

(一部: 五十嵐 1981) などが主なものであって、第2巻以

後の病理学各論全体の近代語訳はない (Siraisi 1987)。今

回は西欧中世・ルネサンスの医学者が読んだであろう

Basel版 (1556) の復刻版 “Liber canomis in medicina”

(1976) に従って、アヴィセンナの精神医学的疾病学の一

端を紹介する。

当時のアラビア医学が西欧医学より優位に立っていた

ことはここに諸家 (最近では Ullmann 1978, Sourmia 1986,

Siraisi 1990, Dols 1992, d'Alverny 1993) の繰り返し指摘す

る通りであって、西欧医学はそれを同化 (Schipperges

1964) したのである。精神病院 bimaristan / maristan も、

インド・ペルシヤ医学の影響下で最初の病院が8世紀の

Bagdad に創設 (Dols 1992) の後、既に6世紀の Bagdad

や Cairo に建設され (Yousseff & 1996)、『Gheel のフロリ

ー (13世紀)、『Bethlem Hospital (London 1227/1403)』

Hospital deignoscentes (Valencia 1409) に先立ち (Panse

1964, Jetter 1981)。また Avicenna が単なる医学者ではな

く、哲学 (“Metaphysica”)、心理学 (“De Anima”) など

の領域でも壮大な体系を残したので、彼自身は繰り返し「これ以上のことは哲学に属する」ことを「医学典範」で述べたにしても、この背景を知ることなしに彼の医学の全貌を捉えるには無理があるという制約があることも付言しておこう。

さて「医学典範」の内容は次の通りである。第1巻「医学科学の一般的事柄について」(Liber 1: De rebus universalibus scientiae medicinae)、『第2巻「単純な薬物について」(Liber 2: De medicinis simplicibus)』、『第3巻「頭などから脚にいたる、目にみえる、または隠された人間の身体部分」(器官)に固有の個別的諸疾病について」(Liber 3: De aegritudinibus particularibus quae sunt appropriatae membris hominis oculis et manifestis a capite usque ad pedes)』、『第4巻: 単一の身体部分(器官)のみに属しない個別的疾病 (Liber 4: “De aegritudinibus particularibus, quae cum accidunt, non appriantur uni membro)』、『第5巻「複合薬物について」(Liber 5: De componendis medicinis, et ipse est antidotarium)』。このうち疾病分類と症状学に関連するのは、第1巻中の(生理学と)病理学概

論(疾病分類原理、病因、症状)、第3巻の身体部位別の病理学各論、第4巻中の熱病、外科疾患、中毒疾患であって、主として「頭から足まで」の個別的疾患中の「頭部の諸疾病」が精神障害を来す疾病を含んでいて、例えば後の Paris 版部分訳(1659: Mennel & 1991)では「精神病」論“De morbis mentis”という書名となっているが、全身疾患ともいべき熱病などは別に記載されていて、ここにも不眠、不安・恐怖などの精神症状が記載されている。

(名古屋市立大学精神医学教室)